



特集「2018和歌山県選出国會議員座談会」詳報



自民党幹事長など和歌山県選出の衆参国會議員が一堂に顔を揃え、県政や国政について意見を交わす、和歌山放送新春恒例の「国會議員座談会」が、1月6日、和歌山市の和歌山放送本社スタジオで開かれ、2時間にわたって公開生放送しました。

放送日時 2018年1月6日(土) 午後1時30分～3時30分 (2時間・生放送)

出席者(丸数字は当選回数)と、各氏に書いていただいたそれぞれの今年のキーワードは以下の通り。

<衆院>

- 希望の党 岸本周平氏(和歌山1区) 「野党 再編」
<去年は欠席>
- 自民党 石田真敏氏(和歌山2区) 「Society5.0 新しい時代の幕開け」
<去年「『第四次産業革命と Society5.0』の始まり!!」>
- 二階俊博氏(和歌山3区) 「新しい年 県勢 飛躍の年に！」
<去年「花は色 人は心」>
- 門 博文氏(近畿比例) 「わかやま 第一主義」
<去年「和歌山(わかやま) WAKAYAMA」>
- 公明党 浮島智子氏(近畿比例) <今年から出席>

<参院>

- 自民党 鶴保庸介氏(和歌山選挙区) 「“実”」
<去年「実現」>

計6人

自民党の世耕弘成氏(参院和歌山選挙区)は「公務のため」欠席でした。

和歌山県出身新春国會議員座談会<1>

<キーワード、抱負>

今年のキーワードを。書いていただいた色紙をかざしてお願いします。

「野党 再編」(2017年は欠席)

岸本周平 はい。今年もよろしくお願いたします。昨年10月の解散・総選挙で、もともと民主党の流れをくむ民進党が分裂をしまして、今、希望の党、立憲民主党、無所属の会、旧民進党と分かれています。今日(の国会議員座談会)は自民党の先生ばかりで、毎年そうなのですが、私はこの9年間、政権にある時以外は野党として1人でやってきました。今の安倍晋三政権は長期政権で、外交・安全保障を中心によくやっておられると思う。しかし、やはり二大政党の下、緊張感のある政治が、立憲主義や民主主義を守るためにも絶対に必要です。すぐに政権交代するつもりはありませんが、やはり健全な野党がしっかりと力をつけて、緊張感のある政治をやらないと、どうしてもおごりとかが出てまいります。ばらけた野党をできる限りまとめていくことが、それぞれの党とか、プラスマイナスではなくて、国民の皆さんにとってもプラスになると思いますので、ぜひ今年は「野党 再編」のドラマを作っていきたいなと思っております。

希望の党の和歌山県組織は新たに立ち上げるのか。

岸本 今、希望の党は、全ての国会議員、総支部長に指示を出していただいて、それぞれの地域の事情に合わせて、いわゆる県連を作るかどうかを地域に任せると、いうことになっています。私は、和歌山で希望の党の県連をつくるつもりは全くありません。今、民進党の和歌山県連がありますし、前の選挙でも民進党両議院総会で決定された事項でしたが、民進党は全力を挙げて希望の党の候補者を応援するという一方で、信頼関係もできていますので、和歌山はあくまでも民進党の県連を中心に、地方議員も民進党でやっていただく。それに私が協力をするという形で進めたいと思っています。



「Society5.0 新しい時代の幕開け」(2017年は「『第四次産業革命と Society5.0』の始まり!!」)

石田真敏 Society5.0 (注1) 狩猟社会<Society1.0>、農耕社会<2.0>、工業社会<3.0>、情報社会<4.0>に続く、新たな経済社会で、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることにより、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することで経済的発展と社会的課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる、人間中心の社会)というのは、政府が日本の未来の姿を表す言葉として使い始めており、今、世の中は大きな変わり目あることを表す言葉です。これは、第5世代、第5の社会という意味です。第1は狩猟社会、第2が農耕社会、第3が工業社会、第4が情報社会、それに続く社会ということです。世の中は本当にがらりと変わるぐらい大きな変化がもう間もなく訪れようとしているということなのです。私自身も、恐らくこれから20~30年の間はそういう社会を目指した動き、実現するための動きになっていこうと思っています。現実的にそれをリードするものとして、第4次産業革命とか、人工知能とかIoTとか、いろんなことが言われています。そういう革新的な技術を使って、いろいろな課題を解決していこう。その結果としてできるのが第5の社会ということになるわけです。この技術革新のスピードは、我々が思う以上に早いです。

皆さんが一番関心を持っておられるのは、例えば囲碁の世界で人工知能が圧倒的な強さを発揮しました。専門家によると(人工知能が人間を負かすには)10年ぐらいかかると言われていました。それが2、3年で実現してしまっただけで、そのぐらいのスピード感があるわけで、そういうことを考えると、それぞれの業界、それぞれの仕事の中で、この技術の変化をどういうふうにつかまえて、どう仕事にいかしていくのか。それぞれの立場で考えていかなければ、私たちはじっとしていても、世の中がどんどん進みますから、置いていかれるっていう状況になると思います。今、その動きがこの景気の良さ、株価の高騰にもつながっていると思っていますので、ぜひ、皆さん方にもこの世の中の大きな流れ、変化を敏感に捉えていただいて、しっかり対応していただきたいと思っています。そういう意味で、これから



20～30年間、こういう流れが続くと思います。昭和35年に所得倍増計画というのが出ましたが、その後、恐らく30年間ぐらい高度成長が続きました。それに匹敵するような時代の変化の入り口に我々は立っている、そう認識して間違いありません。私たち国会議員もそういうことを訴え、国民の安心、安全、安定のために精いっぱい頑張っていきたいと思っております。



二階さん。

「新しい年 県勢 飛躍の年に！」（2017年は「花は色 人は心」）

二階俊博 そうですね。国全体の発展がなければ、県の躍進にもつながらないのは当然ですが、そのことよりも、我々はこの地方、自分たちの生まれ育った和歌山をどうするのか、地域を回って、ごあいさつをしても、皆さんが深い関心を持っておられる。「今年こそ、私たちの地域は！」と、皆さんがそれぞれの地域のことを中心に言われますが、無理もないことだと思います。我々はそういうことも頭に十分置いて、これからの県の発展を日本の発展につなげていくように、しっかりと努力をしていかなければならないと思っています。今年「寒い、寒い」といわれていたお正月も、南国紀州はおかげさまで暖かい日で良かったと思います。この良かったことを県の発展につなげていけるように、皆で頑張りましょうよ。

鶴保さん。

「実」（2017年は「実現」）

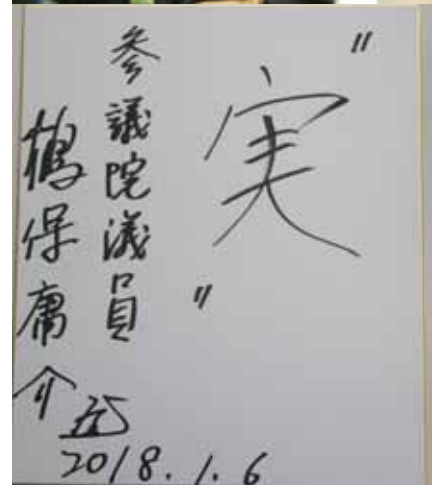
鶴保庸介 今年もどうぞよろしくお願いいたします。「実」と書きました、「実現」「実施」の「実」とにかく「現実のもの」に我々はしていかなければならないという思いで書かせていただきました。昨年1年間は、沖縄・北方および科学技術政策等々

の内閣府の特命担当大臣をさせていただいたおかげで、いろんなことをマクロの立場で政策を打ってきたつもりです。これらの結果が出るのは2年も3年も先になるだろうと思います。ですが、和歌山の場合はもっともっとミクロの政策に今年は力を入れて、和歌山の県政発展が目に見える形でやっていかなきゃいけないと思います。昨年8月3日に大臣退任以降も、サイクルトレインや民泊、イベント民泊もできるようになりました。空き家対策も進めてきました。また、免税店の電子化、高速道路の最高速度の引き上げについても社会実験が行われ、細かな話ですが、少しずつ進んでいます。今、和歌山県全体を見回した時、高速道路はほぼ予定通り、順調に進んでいますから、今後我々は何をしていくべきか、皆さんと一緒に考えながら、一步一步、歩を進めていきたいと考えています。

門さん。

「わかやま 第一主義」（2017年は「和歌山（わかやま）WAKAYAMA」）

門博文 今、「わかやま 第一主義」ということでご紹介をいただきましたが、昨年の総選挙の時にもそのことをずっと訴えさせていただきました。私たちのふるさととは決して人口も多いわけではなく、産業が十分に栄えているわけでもありません。そんな中で少子化、高齢化、空き家も町の中によく見られるような状況になってきた時に、今こそ、将来の和歌山、20年、30年後の和歌山の姿を想像しながら、今やれることは何なのか、ふるさとの発展のために今、目の前にあるチャンスとピンチをきちんと見据えて、ピンチの部分を守っていく、チャンスをつかんでいく、このことを政治を通して活動して発信していきたいと思っております。



なお、世耕経済産業相は、出席をお願いしましたが、公務のため欠席ということでした。ところで二階さんは、公明党の井上義久幹事長と、昨年末、訪中し、習近平国家主席と会談された、成果を含めて。

二階 外交問題はすぐ何かの成果が出るだろうと、期待するわけです。しかし、そうでない場合もあります。私は順当な成果がやがて出てくるだろうと思っていますが、先般の場合には、これをやったからどうだということではない。外交は、皆でその国に対してできる限りの努力を重ねておく必要があります。何かが起こってから騒いでも始まらないのですから。私は順当な成果が得られるものと信じております。

今年は、日中韓3カ国首脳会談を日本で開催して、ということになるのでしょうか。

二階 まあ外交はそういう風に順序立ててというわけにはいかないと思います。それぞれの国としての計画が別にありますから。それはそれでやってもらいたいと思いますが、やはり、他の国との交流をしっかりやっていくということは、日本の場合は、よその国と立場を比べておくだけではなく、我々の方がもっと先導的にいろんな問題に対応していかねばなりません。積極的な対応が求められており、それにしっかり応えるべき時が来ていると思います。

中国の現代版シルクロード経済圏構想「一帯一路」(注2) 習近平総書記が13年から提唱。中国から欧州に至る陸路(一帯)と、南シナ海経由の海路(一路)で構成。第19回党大会で党規約に「共同協議、共同建設、共同享受の原則に従って一帯一路の建設を推進する」と盛り込まれた)について。

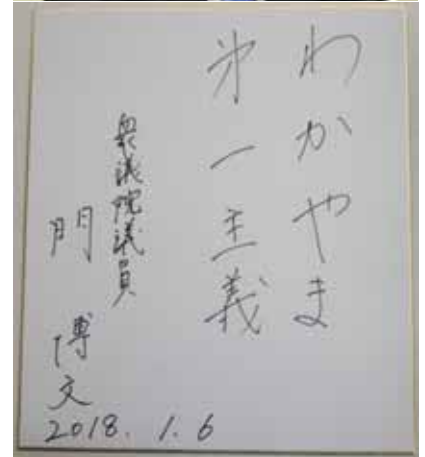
二階 日本のような国の立場、大きさ、実力からして、ずっと相手を、息を殺して見ているだけではなく、積極的にどんどんやっていって、間違っていれば訂正すればいいわけです。それを何もせず、じつと構えているということは、上手な外交だとは言いきれないと思います。もっと積極的にやれ、と我々も政府を督励したいと思います。

岸本さん、この問題について。

岸本 野党かどうかは関係ありませんが、議員外交はものすごく大事なのだらうと思います。今、二階幹事長がおっしゃったように、政府としてはいろんな立場がありますが、二階幹事長は今回、自民、公明の与党の立場で行かれたと思います。議員外交は、両国の関係が悪い時でも議員同士だと率直な話し合いもできます。私は今、日韓議員連盟の事務局にいますが、日韓悪いですね。本当にひどいなと思います。それでも日韓の議員連盟は交互に訪問し、とにかく大変な嵐の中でも、議員同士は腹を割って話し、お酒も飲み、飯も食うという交流をえています。そういう意味では、今回の議員としての二階幹事長と井上さんの訪中は高く評価すべきだと思います。

「二階俊博 全身政治家(石川好著、日本僑報社)」で、「二階俊博の政治的課題は、故郷和歌山で運命ともいえる二つの人的な奇縁が作り出したものだ。ひとつは、『道路族』への道である。これは、濱口梧陵、遠藤三郎そして、田中角栄を経て、日本の『国土強靱化』と国連が制定した『世界津波の日』に至る道である。道路族二階俊博は、日本だけではなく、世界のインフラ整備に対しても先導役を果たしていたのである。もうひとつが、故郷和歌山が生んだ、陸奥宗光、岡崎久彦を通して、二階が実行している『外交政治』である」とあります。この二つの側面を持っていると指摘しています。鶴保さん、この指摘について。

鶴保 全く指摘は当たっていると思います。ご本人を目の前にして大変失礼ですが、どうやったらこんな人脈ができるの？ みたいな話は永田町では有名です。「二階さんというのは、本当に偉いものだね」という評価があります。我々も後輩としてしっかり受け継いで、見習っていかなくちゃいけない、と思います。ちょっと私も思いを述べさせてもらいたい。二階先生がさっき最後に言われた、「政府を督励する」という話がありました。私が沖縄担当相時代に感じたことを言っておかなければなりません。安倍首相も頑張っています。二階さんも多くの議員もそれぞれの場所で頑張っていますが、外交の現場の肝心要の外務省、防衛省等々がどこまで意識を通じてやっていただいているのかということについて、思うところがあります。沖縄で(米軍の)ヘリコプターが落ちました、何か(部品)が落ちてきました、という時に、しっかりと(米側の)その担当のカウンターパートと議論をしているのかどうか。その辺りは我々としてもしっかり注視し、先日も幹事長室から自民党の意見として、ヘリコプターの墜落事故を受けた抗議をさせていただいたのですが、残念ながらその後なしのつづてなんです。こういうことが繰り返



返されていくと、結果として我々の思いとは違う外交的結果を生んでしまうのではないかと懸念しています。これからもしっかりやらせていただきたいと思います。

和歌山県出身新春国会議員座談会 < 2 >

新年度予算について。税制問題に詳しい石田さん。

石田 私は今、衆議院の議会運営委員会筆頭理事と、自民党の国会対策委員会筆頭副委員長をやっていますので、なかなか政策論議の場へ行けない。朝から夕方、夜まで国会運営にかかりっきりで、今までのように深く関わったわけではないのですが、私が思うに、予算を作るにあたって、新しい経済政策パッケージを閣議決定しています。これが非常に重要。人づくり革命、生産性革命といいます。人づくり革命とは、選挙で話題になりましたが、幼児教育、これをどうやっていくか、それ以外の介護人材をどうするのかなどいろいろあります。生産性革命は、中小企業の対策ですが、先ほどキーワードに挙げました「Society5.0」の社会実装も大きな柱の一つになっています。

こういうものをこれからどうやっていくのかは非常に重要で、第4次産業革命（注3 工場の稼働状況や物流、交通、個人の健康などさまざまな分野の情報をデータ化しインターネットを介してまとめ、人工知能（AI）で分析、利用につなげて新たな付加価値を生み出したり、生産の高度化を実現したりする技術革新の動き。蒸気機関による工場の機械化が実現した第1次産業革命、電力の活用による大量生産が始まった第2次、生産工程が自動化された第3次に続く変革期と位置付けられている）とは、基幹技術の話で、人工知能とかIoTとかを話しましたが、もう一つ大事なのは5G（第5世代移動通信システム）、次世代の無線通信システムです。今我々のスマホを見ると4Gとありますが、これが5Gになると、レベルが格段に上がる。和歌山県でも、昨年、県立医科大学と日高郡のある地域を結んで、医療の実証実験やりました。こういうことをやっていくことで、飛躍的な技術の活用が可能になってきます。例えばIoTといっても、5Gがなければ利用できない、といわれています。こういうことをしっかりやっていくことが非常に大事で、こういうことが現実の予算の中でどんどん組み入れられてきたということで、これからの時代をつくっていくために非常にいい予算ができたのではないかと、思っています。

鶴保さん。予算で和歌山県関連で注目する項目は。

鶴保 インフラ整備の一つで、岩出市の（農業のための取水施設の）頭首工は、100億円単位のもので作られつつあります。こういったことは記憶の片隅に入れておいていただきたい。引き続き道路も田辺までの4車線化と紀南の高速道路の延長等々も引き続き進んでおります。その予算確保はしっかりこれからもやっていきたいと思えます。

話題になっている国際観光旅客税、出国税ともいわれています。森林環境税などは、和歌山県にとっては一番影響のあるものだと思いますから、県としてもこの税の使い道等々について、早く意見集約をすべきだと思います。

岸本さん。森林環境税や国際観光旅客税（出国税）などについて。税制改正大綱改正では、サラリーマンの給与所得控除が引き下げられ、たばこ税も増税です。

岸本 森林環境税と国際観光旅客税といった目的税は別にして、たばこやサラリーマン増税は、要するに消費税を8%から10%に上げる時に、与党・政府はいわゆる食料品などを、2%（値上げしないで現行8%に）据え置くという、複数税率（消費税軽減税率）を導入するため、その財源にあてるために増税するということです。野党なのでいわせていただくと、「選挙のときに言うてえな」という話でして、選挙の時に言っていないことを、選挙で勝ってすぐ増税するというのは、増税される国民から見た時に、特にサラリーマン増税なんかは、ちょっとつらい、という気がします。次の通常国会で、我々は指摘していきたいと思えます。

大前提として、本当に財政再建を考えた時に、これまでのような6年連続でどんどん予算を増やしていくというやり方でいいのだろうか、という思いはあります。景気の悪い時は、ある程度財政が動出するのもやむを得ないと思えます。しかし、景気が良くなって税収が上がってくれば、当然、増えた税収で借金を返すということでバランスを取っていくということですが、「今は無茶苦茶景気がいいですよ」と言いながら、借金はなかなか返せないということになっています。これが本当に孫や子にとっていいのか、という思いはあります。一方で、いわゆる景気が良くなって自然増収だけで財政再建というのは、上げ潮派の方はそうおっしゃるのですが、それは本当なのかなと思えます。例えば、「毎年国債の発行高

は減っています」と安倍さんは胸を張ります。確かにアベノミクスで円安、株高で企業収益が増えました。そういう増収効果は、2桁の兆円でありましたけれども、一方で借金を返している分ぐらいは、消費税を3%上げた7兆円位の国の増収、これは税率上げた結果ですね。それから、金融課税とって、株売った時の利益を分離課税で10%から20%に上げているのです。これが2、3兆円増えていますので、結局増税したことで10兆円増えて、それで借金を返しているということなので、やはり社会保障の見直しと合わせて、増税ということについても、正面から逃げずに考えないと、景気さえ良くなれば財政再建できるので、どんどんどんどんやりましょうや、というのはいかがなものか。特に今回の予算は補正予算もついていて、補正予算もかなり大盤振る舞いの予算になっています。これは建設国債で借金してまで大盤振る舞いされています。そんなに今、景気が悪いのか、と考えた時、真面目に考えると、困ったものだなと思います。いやそれだって、金利は低だから利払い費は払えるし、国民の貯金もちょっとずつ増えているから、まあまあこれで数年はいけるのですよ、というのが今の議論です。だけど、今の予算編成で数年いけるということと、孫や子につけを回して、つけを回して、つけを回して、社会正義というか、まさに「財政的児童虐待」(注4) 現在の世代が社会保障収支の不均衡などを解消せず、多額の公的債務を累積させること。将来の世代に重い経済的負担を強いること。財政的幼児虐待とも)という言葉も講学上はあるのですが、社会正義という観点から、孫や子に悪くないのかというような議論も、真面目にしていけないといけないのでは、という思いはあります。

門さん。

門 記憶に新しいところからいきますと、昨年台風21号で県内各所に被害がありました。二階幹事長に推進していただいている国土強靱化というテーマで考えても、足元であった被害を復旧していく、そのための予算も今回の本予算、補正予算に組み込まれています。今後の防災に対して、取り組んでいかなければいけない事業が、ようやく始まりかけようとしているところです。今後も引き続き、この国土強靱化、災害に対して我々がこの国土をどうやって守っていくのかという観点を中心に、今後も和歌山全体のための国の予算の獲得を注視していかなければなりません。一方で、社会保障費が大きくなってきているのも現実です。なかでも未来の日本、未来の和歌山を考えた投資(が大事です)。私は民間で仕事をしてきました。お金は稼ぐための投資として使うことが大事です。鶴保先生も触れていただきましたが、観光関係で、国際観光旅客税は目的税で特定財源化できる新しい取り組みだと思います。和歌山はなんといっても、関西国際空港と至近距離にあり、かつ世界に誇れるいろいろな観光的財産があり、確実に、着実に海外からのお客さんが来てくれている、状況を考えれば、今こそ、未来に向けた投資という意味で、これからまだまだ予算を獲得していかなければならないと思います。

二階さん。

二階 やはり観光関係は思い切って今の上げ潮に乗った時に、しっかり対策を連続して講じていく必要があると思います。ここで一服してしまったりいかなのであって、和歌山県の発展は観光の振興と軌を一にしているわけですし、皆がそのように思っています。ここはしっかり伸ばしていかなければなりません。今年は観光にどんどん力を入れ、入れ過ぎはないと自信持ってやっていきたいと思います。今年前半はそういうことをぜひ皆さんと一緒に考えていきたい。一つの問題として提案しておきます。

経済ですが、年明け東京株式市場の日経平均株価は、前年末比741円高い2万3506円。26年ぶりの高値。年初の株価の動きと日本経済をどうみるか。鶴保さん。

鶴保 景気は良いに越したとはありません。昨年10月の総選挙についてですが、これは(景気を)腰折れさせてはならないという思いの総選挙でもあったわけです。あえて景気が良かった理由を私が評価する立場にありませんが、常に思うのは、先ほど岸本先生がおっしゃった、財政健全化も民主党政権の時も相当やりました。岸本さんには申し訳ないけれども、相当なことを掲げて政権交代があったが財政健全化にそれほど効果もなく、今に至っています。確かに拡大化について懸念される部分もあると思いますが、我々としては、むやみやたらに財政拡大をするのではなくて、(目的税である国際)観光(旅客)税の話ではないですが、何に使うかをしっかり議論していくべきです。ポイントは、使ったお金がさらにお金を生むようにしていくこと。例えば観光の話で言うと、出国税の議論が盛んですが、これの使途を、例えば、私は個人的にこう言っています。今あるホテルや旅館はピーク時とオフピークの差が激しすぎる。だから産業として成り立たない。閑散期はほとんど誰も来ない。だから値段も安い。それが、ピーク時のゴールデンウィークになると急に2倍、3倍の宿泊費になったりする。このピークとオフピークの間を保つような制度を作れないか。その制度のための予算(の財源)として観光税を作れないか。とすれば、各地方で観光は大きく伸びていく。この結果として、恐らく税収を上げたことをカバーし得るものがあるはずなのです。これは皆が分かっているのですが、その議論をするにしてもなかなか国民的議論になっていかないうところがあります。我々としては、しっかり意見・提案をしていきたい。今年前半はそういうことをぜひ皆さんと一緒に考えていきたい。一つの問題として提案しておきます。

岸本さん。

岸本 鶴保先生に反論するわけではありませんが、株価の話に少し戻したいと思います。株価が上がることはいいことで、与党も野党も関係なく上がってもらいたいのですが、少し気をつけなければいけないのは、今、アメリカの経済が非常にいい。アメリカの株式市場が史上最高値を更新していることにつられていられる部分もあると思う。ワシントンポスト、ニューヨークタイムズ、ウォールストリートジャーナルなどの論調は非常に厳しく、2018年は2017年より悪いと思っておけというのが欧米の論調です。2018年は年初、株価が上がることはないだろうと、欧米メディアは悲観的な見方をしていましたが、トランプさんの減税を織り込んだ動きが年末ありまして、実際アメリカの経済ファンダメンタルがとてつもないということもあって上げてきているわけですが、2018年はそれほどでもない、といわれています。つまり、2018年がイケイケなのかどうかは分からないと、慎重に見たほうがいいと思います。一方で日本は、時価総額が東京証券取引所で700兆円となっていて、これは過去最高です。

日本の名目GDP、これはアベノミクスのおかげで名目上、数十兆円、上りました。だけど（東証の時価総額は）日本の名目GDPをはるかに超えてしまっている。これが長続きするのかどうかは、私は暴落を望むわけではないが、経済の規模を超えて株の時価総額が上回り続けることはないのです。過去2回は上回ったことがあるのですが、2回ともその後バブルがはじけ、株価は暴落をするという経験をしています。今の株価はそう簡単に維持できるものと考えずにいたほうがいいのではないかと、タイミングは分かりません。一方で、日本銀行が17兆円も18兆円も株を買っています。今、日本の上場企業のほとんどで、日銀が10番以内の大株主です。ユニクロの筆頭株主は日銀です。それから年金基金がやはり数十兆円入れていますので、それが底支えしているところもあります。

逆に言うと、安心して買えるところもあって、今年、日銀は6兆円さらに買い増す予定です。そういう意味では少し日本のマーケットは異常なので、そう簡単に暴落しないという安心感もあるのかもしれませんが、過去のパターンからすると、日本人投資家が買い始めると、外国人投資家は円高に持っていた上で、売り抜ける。これはまた何度も繰り返されていること。やっぱりマーケットよく見ておいて、円高に持っていかれた瞬間にスパーンと売られたら、損するのは日銀と年金です。その辺も踏まえて慎重に見ていくという部分もあっていいと思います。水を差すわけではありません。良いことなのですがちょっと申し上げておきたい。

石田 ちょっといいですか。岸本さんに反論するわけじゃないのだけど。

鶴保 反論になっていないのでは……

石田 （2つ前の岸本さんの発言で）所得税改革について「選挙のときに言うてえな」というところですが、これはずっとここ数年の課題ですよ。たばこ税も。何とかしようというのは、何にもないところから出てきたわけではない、ということをお願いしたい。これとよく似た話が、国会での与野党の質問時間問題の（与党）2対（野党）8。これも選挙に勝ったから言い出した、と言っていますけどそうではない。私は昨年、衆院予算委員会の筆頭理事の時、ずっと（野党筆頭理事の）長妻昭さんに言い続けたが、全部拒否された。それから、今の株の話ですが、株価は、どこまで上がるか分かりませんし、危ないかもしれません。ひとつ今、安心感を与えているのは、IMFなどのいろいろな予測をみても、昨年と今年、世界的に問題はないということが伝わっているわけです。そういう中での安心感があり、株価が上がってきた。そしてそれによって消費が拡大したという好循環を生んでいるのだらうと思います。株はいつまでも青天井で上がるわけではないので、注意しないといけません。もう一つ注意すべきことがあります。新しい時代を迎えつつある今、これまでなかなか企業は投資をしませんでした。税制改正の議論でも、どうしたら投資してもらえるのか、と議論をやりました。しかし、今、逆に投資をせずに止まっていたら世の中の流れに置いていかれます。そういうことが企業家も随分と分かってきたのではないかと。つまり、AIをどこに導入して、生産性を上げるのかとか、そういうことをいろいろな企業がいろんな立場で考えるようになってきている。こういうことが始まれば、高度成長とまではいなくても、投資意欲が高まって、それに生産が伴って、大きな動きになっていくと、私は考えています。

今、公明党の浮島智子衆院議員がスタジオに入られました。ご出席の国会議員全員が、ぜひお呼びしてほしいほしいとなり、失礼ながら突然、お呼びしました。

浮島 ありがとうございます。二階先生はじめ、石田先生、岸本先生、鶴保先生、門先生のご配慮をいただきまして、参加をさせていただくことに心から感謝をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

で、「政治家は将来の姿を語れ」「人口減の不安を解消する長期計画を示すべきだ」等と訴えました。和歌山県では、2016年人口96万人が、何も対策を講じないと、2060年には50万人程度に激減すると予想しています。石田さん。

石田 私は大きく分けて二つ考えないといけないと思う。一つは全体の人口減少の問題。これをどうするのか。私は、2004年から05年にかけて自民党国家戦略本部で検討し、時の小泉首相に提言書を提出しました。結婚出産への支援、就業と育児の両立支援、経済的負担の軽減という3つの緊急対策を提言しました。財源についても書いたのですが、小泉首相が「兆のつく金はない」と言われたのが忘れられません。つまり1兆円、2兆円という「兆」単位の金がないと。当時は行政改革を進めていて、脇を緩めると改革ができない、消費税上げも見送った、ということで頓挫した。その後、政変、混乱があり出来なかった。そういう中で今になっているわけで、これをしっかりやらないといけない。提言した時は、団塊ジュニアの出産適齢期だったが、本当に大事な時機を逸して、誠に申し訳ないと思う。これをやっていくことが非常に大事です。どういうことをやるか。先日の自民党の会議では、地方大学を活性化し、卒業生を地元にとどまってもらおうという議論がありました。その時の座長がコマツの坂根正弘相談役でした。坂根さんがコマツ社内で、本社、北関東、石川県小松市で女性社員に何人の子どもがいるかを調べたところ、本社、北関東、小松市の順番で数が多かった。つまり地方のほうが子どもを産みやすい環境にあるわけです。だから、企業の地方への本社移転などいろんなことをやってもらいたいと言っているが、なかなか分かってもらえない。坂根さんは経団連副会長としてその数字を発表したが、後に続いてくれる人が誰もいなかったそうです。言い訳しても仕方ないのですが、国の機関や民間企業の地方移転なども進めなければなりません。今度、和歌山市に統計局の機能が一部移ってきます。今のデータセンターだけで満足しては駄目で、我々の目的はデータセンターを作るのではなく、政府機関の移転し、国の形を変えることなのです。先ほどの5Gの次世代通信インフラ整備も私は都会からではなく地方からやるべきだと主張しています。そうでないとまた大きな格差になってしまう。国レベルの議論だけでなく、地方レベルでいうと、今、市町村でやっている地方創生事業、これをしっかりやっていくことだと思います。そして、一人ひとりが頑張っただけで知恵を出し、どうやって雇用の場をつくっていくか。小さくてもいいのです。そういうものを積み重ねていく中で、和歌山県内に若者がとどまって、子どもが生まれる地域を作っていくことが大事なのだろうと思います。国、県、市町村で頑張り、地域住民の皆さんにも頑張っただけで、その総和で問題を解決していかねばなりません。安倍内閣の安定した政権の下で、しっかり取り組むという意欲を示していますので、我々もしっかりやっていきたいと思っています。

岸本さん。

岸本 石田先生が言われたように深刻な問題です。出生率は少し取り戻しますが、出生数が減っています。昨年1年で生まれた赤ちゃんが100万人を切りました。1世代前は倍ぐらい生まれていました。戦後の第1次ベビーブームで生まれた人の子どもたちが結婚して子どもを産んで、第2次ベビーブーマーが生まれましたが、その次がなかったのです。結婚しない、結婚しても子どもをつくらないという人が増え、その世代が減ったため、そのまた次の世代は増えないのです。我々国会議員や地方自治体が一生懸命やって、ベストを尽くしても、増えない。減るのを止めるぐらい。だからある程度人口が減ることはもう前提なのだろうと思います。

その上で私は二つあると思います。一つは、政府、自治体がきめ細かな政策を地道に打つということ。を絶対やらなければならない。例えば不妊治療。これはご苦労されている方がいてお金もかかるので、ある程度、国が予算つけることも必要です。高齢者中心の社会保障の資金配分を、若者中心、若い世代に振り替えていく。両方増やすのは無理ですから、申し訳ないけども、高齢者に手厚い部分を若い人に振っていく資源配分です。それではしんどいということであれば、消費税を上げさせていただいて、その財源で若い人たちが結婚し、子どもが持てる施策に財源を持っていく。そういう地道な努力が必要だと思います。もう一つは、それでも出生数が減っているわけですから、外国から移民に来ていただき、日本を助けてもらうことも考える必要があると思います。今、日本では毎年、外国人労働者が10万人増えています。日系が4割ぐらい。留学生が2割ぐらい。高度技能者が2割ぐらい。いわゆる研修制度で来ている方が2割ぐらいです。これを、例えば年間20万人ぐらい増やすと、ある程度日本経済にとってプラスだという推計もあります。全体の減る数からすると、規模は小さいのかもしれませんが、日本が魅力的で住みやすく素敵な所で、特に和歌山は住みやすい。そういう所に優秀な外国の方に来ていただくという議論をもはや避けることはできないのではないのでしょうか。もともと日本列島に何千年か前にいろんな民族の方が集まって日本民族ができていくわけですから。もう一度、外国の方を受け入れるのも、私は避けて通れない課題ではないかと思っています。

二階さんは、福田元首相の指摘にどう答えますか。

二階 それは福田さんのお話として、言っておいてもらったらいい。自分たちの時代に、何を語ったの

か。何をやってきたのか。誰が、と指をさして言っているのではない。だけど、今日、こういう状態になり、我々はお互いに喫緊の急務で、誰だ、彼だといっている暇はない。だけど、その中で我々は、比較的、都会の人たちに比べると生活がしやすい地域の和歌山県にいます。率先して立ち上がるチャンスなのです。今がね。これを一つ、県内の政治家がみなで力を合わせて、立ち上げられる状況をつくって、県にも後押ししてもらって、具体的にやろうじゃないですか。こんなことを議論したってしょうがない。議論したって子どもが生まれるわけがない。そんなことを言って歩いて、メガホンを持って「子どもが欲しいです」といっても、子どもは生まれません。だからそんなことは横に置いて、具体的に和歌山県としてどう対応するのか。どういう取り組みするか、ということをやってみようではないですか。

鶴保さんは。

鶴保 今の（二階先生の）言葉を受けて、言おうと思ったことがあります。僕はなぜ中古住宅政策をやってきたのか。まさにこれなのです。少子高齢化で結婚しない、子どもを産まないのは、将来不安があるということ、子どもを産み育てる環境が非常に世知辛い、経済的な理由がある。この二つがある。特にその将来不安について私は、早くから「リバースモーゲージ」(注5) 自宅を担保にした融資制度の一種。自宅を所有しているが現金収入が少ないという高齢者世帯が、住居を手放すことなく収入を確保するための手段)を提唱してきた。自分が持っている資産、田舎の家でも、それを証券化し、それを元にお金を貸してくれるような仕組みをつくれれば、年金が少なくても暮らしていけますよね、と安心につながっていく。だからリバースモーゲージをやしましょう。それから、二階先生いわれたように、若い人たちが住みやすい和歌山で暮らしていただきたい、と思っても、来ないのです。和歌山には空き家がたくさんあっても、その空き家を買って入居してこられない。なぜなのか。その空き家が、買う値段に見合うだけの価値があるのか全く分からない。平たくいうと、中古住宅市場がなかったのです。だからリバースモーゲージも育たない。中古住宅市場を活性化するため、さまざまな政策を打とうと、3年、4年前から、門先生にもご協力いただいてやってきたのです。これらができれば全てとはいいませんが、全ての政策が結局のところ、全部少子化対策になっていくのです。もう議論している場合じゃない。実施、実現をしていく段階に来ているということをご分りいただきたい。私は、沖縄担当相をさせていただきました。沖縄は人口も増え、出生率も上がっているのですよ。そのことをもって、下向いていっていても仕方ない。少子化についての政策はいっぱいありますから、これを全部やっていくということを皆さんと一緒に、今年1年やらせていただければと思います。

二階 沖縄に行き習ってきたらいい。それで現実に躍進している地域があるのです。片方ではぼやきのようなことをずっといっている。そんなことをいうのが好きな人が役人にも政治家にもいるでしょう。そんなこと言っていたってしょうがない。子どもが生まれ、立派に育つような環境を、沖縄に見習えという意気込みで、皆で頑張ったらどうですか。

門さんは。

門 私は26年前に結婚し、子どもが3人、娘がおります。娘たちが生まれてきたプロセスを今、皆さんの話を聞きながら考えると、結婚してすぐ長女が生まれました。妻が働いていて、妻の実家も私の実家も近くにあり、両親がいてくれたこともあり、その後、妻は職場に復帰しました。次女が生まれました。そこから先、何かのデータや指数を見たわけではなく、自分の実感として、両親が近くにいて育児を手伝ってくれるこの環境であれば、おのずと3人目をつくってみよう、期待してみようということになったわけです。ですから、いろんなデータを示して、この数字をクリアしたら子どもが増えるということではなく、普段の生活の実感の中で、そういうことが感じられるのです。私は田舎で生まれ育ちました。両親も近隣にいてくれました。しかし、例えば東京で生まれ育ったら、近くに私と妻の両親がいてくれたのか。これも東京一極集中です。二階先生の沖縄の話ではないが、東京ではない地方で成功している地域を我々は見習っていかなければならないと思います。待機児童の問題もヒステリックにいわれる部分もありますが、同じ待機児童の問題でも和歌山と大都市では問題の質が全然違います。

もう1点、人口が減っていくことに対する考え方ですが、働く時間、働く年齢ですが、選挙区を回っていると、「70歳ですがまだ働いています」「75歳ですがまだ働いています」等という方にたくさんお会いします。新聞を読むと、65歳以上で働いている人は、15歳から24歳までの人口よりも多いそうです。現実、もうそういう時代が来ているのですから、定年制も考え直して、元気に働ける間は一生懸命働いて、自分の健康を保ちながら、経済的にも年金だけではなく自分で下支えをしていく。もっとも、体が不自由などで働けない人たちには、これまで以上に手厚い社会保障をしていく。日本では、60歳を過ぎたら定年です、後は余生を送りましょう、という人生観ではなく、人生100年時代の働き方改革、生き方改革を和歌山県が先頭に立ってやっていくべきだと思います。反面、働く場所がないやないか、というご意見もあると思いますが、労働人口を安定的に供給できるということが企業の誘致にも逆に役に立つと思います。和歌山県は高齢者の皆さんがピンピン、意欲的に日本一働けるような県にしていってらどうかと思います。

浮島さん。途中からの参加ですが、どう考えますか。

浮島 私は、女性が子どもを産み育てやすい社会、環境をつくっていかねばいけないと思っております。今、お話を伺って思うのですが、やはり人と人とのつながりが希薄になっている今、門さんが言われたように東京・大都市と田舎・地方では違う。だからこそ、この和歌山から人と人とのつながりをもっとしっかりと構築していかねばならないと思っております。先ほど岸本先生が言われていたのですが、我々もこれまで不妊治療や妊婦健診への補助、出産一時金などいろいろ拡充してきました。それと同時に教育にすごくお金がかかるということもあります。子どもを3人ほしいけれど、お金がかかり過ぎるという人もいます。今回も人づくり革命ということで、教育に光が当たっていますが、教育費の負担軽減をしっかりとしていかなければならないと思います。私は劇団をやっていますが、子どもたちと接して思うのは、人と人とのつながり、人と話すこと、対話をすることが、すごく薄くなってきています。地域から皆で連携をしていくことが大切ではないかと日々感じています。



和歌山県出身新春国会議員座談会 < 3 止 >

和歌山県への提言。石田さん。

石田 いろんな角度あると思いますが、やはり安心のためには、集中豪雨や地震などの自然災害を念頭において、対策を講じ、安心して生活できる状況をつくること。集中豪雨は温暖化の影響だと思えますが、今までの排水機能で本当にいいのかということ、専門家を入れ、お金を注ぎ込んでいかないと。毎年のように土砂崩れがあったり、床上浸水があったりします。これではだめだ。働く場をどうするのか。私は例えば農林水産業をどう高度化していくのかだと思う。(日本産の柿の米国への輸出が解禁され)昨年12月、JA紀北かわかみの(富有)柿がアメリカへ輸出されました。組合長さんと話しました。あんぽ柿も輸出したらどうですか、話しました。(アジア最大級のB to B食品・飲料展示会の)「FOOD EX JAPAN」で、JA紀北かわかみが一番になったことがあります。その時の品物があんぽ柿だったのです。その時の審査員は全員アメリカ人だった。だから必ずアメリカでも売れるからという話です。どんな売り方するのか、どう持っていくのかはありますが、あんぽ柿も売ったらいいですよという話をしました。

観光は大事です。私、海南市長のころ、「わんぱく公園」というのをつくりました。その時の有名な先生がいうには、大体1億円の投資で年間5000人が来ると。これが一つの基準だそう。観光でも多くの人に来てもらうためには、外国人に来てもらうためには、どういうことに満足してもらえるのかを考えると、ある程度の資金を投入しないとまとまった人は来てくれない、と思います。ある程度まとまった人が来てくれないと、そこに雇用や土産物などの産業は生まれてこない。そのための財源、人的パワー、権限のパワーをしっかりとつけていかないといけない。その全てに関わるのが、新しい技術です。これをどう活用するか。例えば、外国人が来る、2020年の東京オリンピックで、多言語翻訳機は10カ国語をTOEIC700~800点で対応できるというわけです。日常会話はOKです。そういうものを利用したら、どこにどの国の外国人が来てもほとんど会話ができる。そういう技術を取り込み、各地に拠点をつくって、そこに雇用の場、働く場を増やしていく。(こうしたことが)和歌山県のこれからの進むべき道になっていくのではないかと、思っています。

岸本さん。

岸本 この番組に毎年、出演させてもらい、よく言うのですが、私は(衆院選に初めて出馬してから)12年目になるのですが、東京から和歌山市に帰ってきて、草の根でずっと活動する中で、一番感動するのは、和歌山の20代、30代の若い人がものすごく輝いていることです。私の子どもよりちょっと下ぐらいで、いろんなパターンがあるのですが、一つは親の仕事の跡継ぎで和歌山に戻ってくる人。一度和歌山を出たが戻ってくる人。中小、零細の後継者。大阪、東京、名古屋とかで働いていて、たまたま奥さんが和歌山の人で、奥さんのふるさとに戻り、県外からやってきた人たち。仕事は広告や宣伝、ITなどソフト系の方が多いのですが、東京や都会で仕事してきた人なので、(妻の実家に)戻ってきて仕事があるのです。また、ずっと和歌山に残っている人もいて、三つぐらいのグループがあります。本当に真面目で、和歌山のことが好きで、結婚して子育てする人たち。子育てのためにはお金もいるので仕事も一生懸命する。でも和歌山が好きなので、土日はボランティアでいろんなこと、それこそ夢祭りなどをやってみたり、いろんな活動をやったり、町おこしやっているのです。

私自身が20代、30代の時はどうだったか。仕事中心で、家族とか地域とかは二の次だったなという反省があり、この人たちはすごいな、と思います。それで、この人たちが結構楽しくやって、仕事もしている。企業誘致も大事で、市も県もやってくださっている。それはそれとしてやりながら、人誘致です。こうした人たちが、例えば起業する時に資金が出やすいか、そういう仕組みづくりや、そういう若者たちが出会う場をつくっていくとか、です。さらに、移民については反対のご意見もあると思うのですが、アジア中の元気な人が和歌山へ来て起業してもらおうとか、そのこと自身が人口減少問題の対応にもなるだろうから、人誘致ということを全県挙げてやると。その中で今、石田先生もおっしゃったように第1次産業の農業林水産業、和歌山では農業も林業も水産業も最高のポテンシャルを持っていると思いますので、人誘致をぜひ、これは与野党関係なく、県も市も巻き込んでやってきたいなと思っています。

二階さん。

二階 和歌山でこれから元気が出て来るのは、クルーズ船。新しい時代に非常に受け入れられやすいと思います。和歌山は端から端まで海に面していますから、ここでこのチャンスを生かすということの一つ、皆で考えたらどうだろうか。和歌山ならではの、というのが次々とあると思いますから、そういうものも発掘して行って、和歌山の未来を積極的に開いていくことを考えていきたいと思っています。私は和歌山にはチャンスはいっぱい転がっていると思います。真正面から見据え、県も地元市町村も応援して、一体になって進めていく。我々は何をするのか。東京でセールスマン、セールスウーマンをやったらいいじゃないですか。皆でね。やろうと思っただけでもやれるわけです。この巡ってきていることをピンチと思わず、チャンスと思って、前へ出していけばいい。我々も積極的に協力していけるようにしたいと思っています。

二階さんが中心になって制定された「世界津波の日」。今年は仁坂吉伸知事も和歌山での記念事業などの開催をと、誘致されています。

二階 最初の開催は礼儀、エチケットから和歌山へ持ってきたかったのですが、和歌山はこういう時には一瞬と跳ね上がったように、「さあやろう」と飛びつくまでに時間がかかるでしょう。だから2列目、3列目に、戦術的に置いてあるのです。けどもう、皆がやろうやろうといっているのだから、今度は（和歌山県で関連行事を）やれると思います、やらなきゃ駄目ですよ。和歌山のためになりたい、和歌山のためにやってほしいから我々はこういうことに力を入れ、（第1回目の高知県に続いて第2回目の）沖縄まで、出掛けていくわけです。和歌山がやる気がなかったら我々もそんなことに関心持たないで、もっと別のことをずっと唱えとればいいでしょ。けど我々は和歌山だからやろうといっているんだから、和歌山が立ち上がってやろうじゃないですか。

濱口梧陵翁の地元の広川町が中心か。

二階 濱口梧陵先生の時代と今とはだいぶかけ離れていますから、濱口梧陵と地元とをくっつけるのはどうかと思いますが、それでも何にもないよりはましですよ。濱口梧陵さんっていったら、最近では、東京でも知らない人は、自分が時代遅れになっているのかと恥ずかしい思いで、追い付こうとしていますよ。だからやはり、しっかりと売り込みをやるべきじゃないですか。

和歌山県で開催となれば、和歌山県を売り込むいいチャンス。

二階 （高知と沖縄では日本の高校生と海外から派遣された高校生が防災・減災について学ぶサミットが開催された。その）高校生サミットで皆が英語でべらべらと議論をやるのです。で、その高校生たちが（和歌山に来て）和歌山の問題、国際社会の問題を語るわけです。私は自信を持って和歌山もそういう問題にどんどんと提言をし、表へ出していくということを努力する時に来ていると思っています。ぜひやりましょうよ。

鶴保さん。

鶴保 和歌山らしい、特色ある、抜きん出たような特徴をつくること。それから和歌山が世界とつながること。この二つを目標にしたいと思っています。

特に、抜きん出た何かというのは、いろいろなアイデアがあると思います。和歌山に来たらこんなことができるのか。こんなおいしいものが食べられるのか。こんな経験ができるのか。さきほど話した中古住宅のことですが、和歌山には空き家たくさんありますから、和歌山に来たら安い家に住める、広い家に住める、これだけでも大きな魅力になると思います。道路網の整備もそうです。和歌山に来たら渋滞がありませんよ、というような話。これからは自動運転を進めていきたい。自動運転で24時間365日無人のコミュニティーバスが走っています、といえ、高齢者は大喜びするはず。しかし、それを実現するためには国の法律などいろいろなハードルがあります。できないことをまずいうものから。そうではなく、リスクはあるが、和歌山が日本で一番リスクを取って、日本全国の模範・講師となるよ

うなぐらいの気概でやっていただく、ということが大切ではないか、と提案しておきたい。

他にも新しい技術を使ったドローンもあります。最初に述べた、サイクルトレイン（注6）自転車を鉄道車両内に、解体せずに持ち込むことができるサービス）があります。しまなみ海道を走っていただいたら分かると思いますが、町おこしのために町全体がサイクリングで町おこしをやっていきます。後追いで我々がやる必要はありません。我々は一体何を指すのかを、ぜひ皆さんと一緒に考えていきたい。サイクリング、自転車を乗せてそのまま電車に乗れる。社会実験として土日ですが、JR和歌山線でやっていきます。和歌山全体でサイクルトレインができた場合、渋滞なしでうろうろできる。これは大きな魅力になるのではないのでしょうか。

それから残念なことに、今日、鳥獣被害でお1人が紀美野町で亡くなったそうです。イノシシに突っ込まれて亡くなったそうです。和歌山こそ鳥獣被害対策の先進県でなくてははいけません。鳥獣被害対策が一番進んでおり、和歌山へ来ればジビエの料理が日本一新鮮でおいしく、安全なジビエ料理が食べられるというような仕組みをつくる。こんなこともあると思います。一昨年4月に、イベント民泊を解禁しています。何回やってもいいわけです。地域で、人がたくさん来てくれるようなマラソン大会であったり、サイクリング大会であったり、どこに行でも皆、お祭り騒ぎだと。享乐的で怒られるかもしれませんが、イベントをどんどん打ち込んで交流人口を増やす。町中がごった返した状態をつくってしまう、そうやってこそ初めて人が増えていくのではないのでしょうか。そういうイベント民泊を皆さんが考えてやっていく。まだまだあります。全ての政策は和歌山のためです。下向いている場合ではないということ。早くリスクを取って、日本で最初の和歌山県であるべきだということをお願いしておきたいと思えます。世界につながるという話は時間があれば申し上げます。

門さん。

門 正月、和歌山放送を聞いていますと、和歌山出身の松下幸之助さんが起業して今年でちょうど100周年ということ。私も松下関係の会社にて、松下幸之助さんが残されたいろいろな経営の格言、言葉の中で好きなひとつがあります。それは「経営のコツ、ここなりと気付いた価値は100万両」。経営には、やっぱり「コツ」があって、そこに気付くかどうか、気付いたらその値打ちは100万両に値する、とおっしゃっています。私は観光のことしかお話しませんが、コツっていう意味では、非常にいろいろなコツに気付くことができると思います。（16年2月16日開催の第107回）和歌山放送情報懇談会に講師で来られた、小西美術工芸社社長のデービッド・アトキンソン氏、彼からいろいろなことを教えられるのですが、年末に聞いてこれは非常に興味深い話だと思ったのは、ある県の刀鍛冶屋のお話です。一振り300万円の刀をつくるのですが、なかなか売れない。ある時、アトキンソンさんが交友関係のある外国人の方が、ぜひとも日本刀が欲しいという話があり、つなごうとしたのですが、刀一振りを売るだけではだめだと思って「体験を売ろう」と考えた。刀鍛冶の白装束着てもらって、最初にお袂いをするところから始まり、火入れ式などいろいろなことを、段階を経て、刀を売るだけでなく刀を作ってそれを買ってもらうという体験を売る商品に仕立てた。そしたら、それがなんとまあこれびっくりする話ですけれども、一振り300万円の刀が200万円で売れた、と聞きました。これが全てに共通することではないかもしれませんが、体験を売るという「コツ」を和歌山がつかめば、さっきの農業や林業、漁業もそうです。今までも漁師体験っていう商品もあったと思います。1000円、1500円で、日中の明るい時間帯にポンポン船に乗ってぐるっと回って1000円、1500円だった、と思います。しかし、「本物を体験してもらおう」と、例えば漁師さんが夜中1時に出港するのに一緒に乗って、漁師さんと同じ服装をして、実際に漁を体験してもらう。この体験する商品は、3万円とか、5万円とか、付加価値のある体験型の観光を和歌山でやろうとすれば、メニューは100でも200でも出てくると思います。商売としても事業としても成り立っていく要素が出てくるのではないかと考えています。

同じくアトキンソンさんがいわれていたことですが、日本遺産に17年4月、「絶景の宝庫 和歌の浦」と「『最初の一滴』醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅」が、16年4月には太地町（と新宮市・那智勝浦町・本町の「鯨とともに生きる」）が認定された。で、彼が言うのは、「日本遺産に登録されたのはゴールではなくスタート。日本遺産になったことを活用して、地域がどういうふう活性化するのが、ということ。地域が取り組まないだめだ。幟を立てて、『祝 日本遺産認定』、ということで終わってしまったら何にもならない」と。気概を持って、我々政治家が先頭に立ってやっていって、その「コツ」っていうものを、皆で共有をしていけたら、と思います。それと、国会でいろいろ議論が始まると思いますが、懸案になっているIR（注7）Integrated Resort 統合型リゾート。IR推進法が16年12月に公布・施行。正式名称は「特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律」。カジノを中心に宿泊施設、会議施設、テーマパーク、商業施設などを一体的に整備する統合型リゾートの設立を推進する基本法）は、実施法が整備されることと並行して、世界からたくさんの人に来てもらえるような立派なIRをなんとしても和歌山に誘致したい。建設投資や雇用を和歌山の中にしっかりと根差していきたいと思っています。

二階 頑張ってください。

門 応援を宜しくお願いします。

初登場の浮島さん。

浮島 はい。さっき二階先生がおっしゃっていたのですが、和歌山にはチャンスがいっぱいある、と。私も、和歌山に帰ってくると、和歌山の良さはたくさんある。食べ物おいしい、風景はいい、人はいい、などたくさんありますが、和歌山の中にいると当たり前のように、和歌山のよさのアピールの仕方がなかなかうまくいっていないというところがすごくあると思います。例えば観光をどんどん広げていこうという中で、東京で今パンダがすごい人気で長蛇の列。抽選で見ている。私、東京の皆さんに、和歌山県白浜町のアドベンチャーワールドにジャイアントパンダが5頭もいる。1994年、中国成都ジャイアントパンダ繁育研究基地の日本支部として、世界で初めて自然繁殖のための日中共同研究が始まったということ、皆さん、「え、そうなのですか」とおっしゃる。実は和歌山ではもう既に15頭も生まれているのですと話す、「そんなすごい所があるのですか。見に行きたい」と皆さんおっしゃる。こういうことをもっとアピールしていくことも必要だと思います。また、今、門先生からお話が合った日本遺産もそうです。地方創生という観点からしっかり予算をつけて、それで3件、和歌山で認定させていただいております。日本全体で2020年までに100件認定していこうとして現在54件です。あと46件ですが、認定されたから終わりではなくて、そこで地域の皆さまがたと話し合いながら、どうやって活性化をしていくのか。2020年のオリンピック・パラリンピックまでにいろんなことをやっていき、そこからスタートだと私は思っています。皆さんといろんな知恵を出しながら、日本遺産やパンダを有名にすることなどをやっていきたいと思っています。



門 アドベンチャーワールドのパンフレットを皆で配りましょう。パンダの格好をして和歌山の国会議員が全員で。

石田 これネットで話題になっていました。知事が記者会見で話したこともあり。皆さんが書き込んだりして。キー局とは関係なく動いて広がって、で話題になると思います。ネットをどう使うかが大事です。

誰がするということではなく、県民一人一人がネットで発信していく。声を上げていくってことだと思います。こんな食べ物うまいとか、こういう場所がいいとか、パンダは和歌山だとか。それぞれ思いを発信してもらえばいいと思います。

(16年1月9日の)この番組の生放送で、統計局の和歌山移転を、本日欠席の世耕さんも含め、進めていこうとなり、その一部の統計データセンターが今春オープンする。鶴保さん、形にする、お話は。

鶴保 統計データセンターに則していいです。統計データセンターが来ただけで和歌山が良くなることはありません。人口は10人が15人ぐらい増えると思いますが、科学技術担当相をやらせていただいた経験上、データ解析するその知能、頭、これが一番日本に欠けています。例えば衛星が膨大なデータベースを作って持っています。しかしそのデータベースを解析する技術が、実を言うと欧米に比べて日本はゼロです。データベース解析現場に、アナリストがいないということもあります。我々は、データセンターが来ることによって、そこから派生的に何をすべきなのかということは今後考えていくべきなのだと申し上げておきたい。

和歌山は、世界とつながってなきゃいけない。和歌山は、世界がどこでどんなことをやっているのかという情報を常に入ってくるようにしないといけない。今はネットの時代ですから。情報は常に待っていれば入ってくるし、こちらからも出せる。信じられないことですが、一個人が出している情報を世界中が見ているのだという意識をわれわれ持つべきなのです。その上で行政を頼っているだけではいけないということ。私は国交省の副大臣のころ、観光情報発信の大切さ、各自治体が観光アピールのためにポータルサイトを作るべきだと思いました。人口の少ない村には、ネットに詳しい人材がいない場合もあるだろうから、それを助けるためにフォーマットを作り、穴埋めさえすれば、その村の観光アピールができるようなものを作ってはどうかと思いました。これを全国的にやればいいたらと思うのです。観光庁は、それいいですね、といていたのですが、それすらまだできてない。なぜできないか。それは私の力がないからなのですが、難しいという話じゃないと思います。それをやったところで地域の皆さんがこぞって観光アピールをされるのかということ、それほど効果があるかどうか分かりません。個人でもいいので、どんどんどんどんやっていこうじゃないかという話を申し上げておきたい。

それからもう一つ、沖縄出身者が全世界にたくさんいます。調べてみたら、移民として渡った人たち

は和歌山も結構上位です。沖縄、高知、和歌山。和歌山からの移民の方々と連携が弱いような気がします。こういう世界中の和歌山県出身の方々と連携し、沖縄の場合では5年に1回、ウチナンチュサミットをしているそうですよ。これと同じような、和歌山県サミットをやりませんか。提案しておきたいと思います。和歌山県で全世界に散らばっている人たちを呼びましょう。毎年でなく。いろんなサミットという形を取り、世界の情報を集める、連携をすることも、和歌山が率先してやっていくべきはないでしょうか。

岸本 鶴保先生に反論ではなく、補足をさせていただきます。私もびっくりするのですが、和歌山市内の中小企業の機械メーカーさんから聞きました。ホームページに英語でアップしていると注文が入るそうです。「びっくりしますよ」といわれる。でも中小企業なので、英語で海外とビジネスしたことがない。それで、商社OBを公募したら、55歳ぐらいで辞めた人を、和歌山としては少し高い給料を出して来てもらい、海外ビジネス始めたそうです。また、既に海外進出し、中国とタイに工場を持つある中小企業では、既にベトナムやタイ、韓国、中国の学生を直接採用しているそうです。社長が面接に行って、日本人と同程度の給料で正社員として（日本で）雇用するそうです。最初は日本語ができないので、午前中は和歌山市内の日本語学校に通い、午後、働く。2年ぐらいで日本語も完璧になり、10年ぐらいかけて社風をたたき込み、現地の責任者にするそうです。中小企業なのだけど、何十人もアジアの学生が正社員で来日している例が実はあります。そういう意味では、我々が思っている以上にそれぞれ皆さん、頑張っている。

特にインターネットの力で、鶴保先生がいわれたように、世界と直接つながっているということは、もう夢ではない。ぜひ皆で応援していただきたいし、応援していきたいと思います。

統計局の移転推進も二階幹事長がリーダーシップを取られました。こうしたらどうか、ということがあれば発言を。

二階 とにかく私は、言ったことはやれ、実行しろと。実行できないことは言うなと、東京の仲間にはいうのです。乱暴のようだけど、当たり前のことでしょう。実行しないことをいろいろ言ってもだめです。他の職業だったら思いつきでいろいろ言ってもいいと思いますが、我々は国会議員で、実行力を問われているわけです。そういう意味で、皆でこのお正月、ここで話し合ったこと、大事なと思っていることは、次に場所を東京に移してでも、やろうじゃないですか。そして、和歌山放送の番組はいいぞと、あの番組で話し合われたことは必ず実行に移される、そういうふうにはやろうじゃないですか。幸いに我々、自民党ばかりがしゃべっているのではなくて、岸本先生のご意見も十分聞いて、対応しようと言っているのですから。これでやっていけば、何だって円満にやっていけるじゃないですか。



岸本さん、どうですか。

岸本 和歌山のためには党は関係ないですから。皆で仲良くやらせていただきたいと思います。

鶴保さん、沖縄の人口増を皆で勉強したら、ということですが、提起されたご本人として。

鶴保 私が沖縄担当相の時に、沖縄に欠けているところを補足したのです。例えば、病院、教育、交通渋滞等々の解決策を提案しました。最初にやったのは、沖縄県民にとって何が一番本題ですか、という調査です。やっぱり父子家庭、母子家庭が圧倒的に多くて、貧困率が高い。なおかつ、行政に全くアクセスができていないから、何をしたらいいかも分からない。貧困のまま、ずっと貧困の再生産をしていた。だったら行政がこういうことをやったらどうか、と子どもの貧困対策等を行いました。ICTを使って教育の授業なんかもやりました。

本日は活発な議論、ありがとうございました。